**タイトル**\*

**English Title**

音韻論太

Ronta Onin

音韻大学

Onin University

**ABSTRACT.** Abstract xxx xxx xxx xxx. Abstract xxx xxx xxx xxx. Abstract xxx xxx xxx xxx. Abstract xxx xxx xxx xxx. Abstract xxx xxx xxx xxx. Abstract xxx xxx xxx xxx. Abstract xxx xxx xxx xxx. Abstract xxx xxx xxx xxx. Abstract xxx xxx xxx xxx. Abstract xxx xxx xxx xxx. Abstract xxx xxx xxx xxx. Abstract xxx xxx xxx xxx. Abstract xxx xxx xxx xxx. Abstract xxx xxx xxx xxx. Abstract xxx xxx xxx xxx. Abstract xxx xxx xxx xxx. Abstract xxx xxx xxx xxx. Abstract xxx xxx xxx xxx. Abstract xxx xxx xxx xxx. Abstract xxx xxx xxx xxx. Abstract xxx xxx xxx xxx. Abstract xxx xxx xxx xxx.

**Keywords:** keyword, keyword, keyword, keyword, keyword

**1. セクションタイトル**

ここからセクションを始める。セクションを書く。セクションを書く。セクションを書く。セクションを書く。セクションを書く。セクションを書く。セクションを書く。セクションを書く。セクションを書く。セクションを書く。セクションを書く。セクションを書く。

**2. セクションタイトル**

**2.1 サブセクションタイトル**

2.1.1 サブサブセクションタイトル

ここからサブサブセクションを始める。サブサブセクションを書く。サブサブセクションを書く。サブサブセクションを書く。サブサブセクションを書く。サブサブセクションを書く。

　(1)

サブサブセクションを書く。サブサブセクションを書く。サブサブセクションを書く。サブサブセクションを書く。サブサブセクションを書く。サブサブセクションを書く。

2.1.2 サブサブセクションタイトル

ここからサブサブセクションを始める。サブサブセクションを書く。サブサブセクションを書く。サブサブセクションを書く。サブサブセクションを書く。サブサブセクションを書く。

**2.2 サブセクションタイトル**

　ここからサブセクションを始める。サブセクションを書く。サブセクションを書く。サブセクションを書く。サブセクションを書く。サブセクションを書く。サブセクションを書く。サブセクションを書く。サブセクションを書く。サブセクションを書く。

表1. タイトル

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  |  |  |  |
|  |  |  |  |
|  |  |  |  |
|  |  |  |  |

サブセクションを書く。サブセクションを書く。サブセクションを書く。サブセクションを書く。サブセクションを書く。サブセクションを書く。サブセクションを書く。サブセクションを書く。

|  |
| --- |
|  |

図1. タイトル

サブセクションを書く。サブセクションを書く。サブセクションを書く。サブセクションを書く。サブセクションを書く。サブセクションを書く。サブセクションを書く。サブセクションを書く。

**注**

\* ここから注を始める。注を書く。注を書く。注を書く。注を書く。注を書く。注を書く。注を書く。注を書く。注を書く。注を書く。注を書く。注を書く。注を書く。

1 ここから注を始める。注を書く。注を書く。注を書く。注を書く。注を書く。注を書く。

2 ここから注を始める。注を書く。注を書く。注を書く。注を書く。

**参照文献**

Alderete, John and Alexei Kochetov. 2009. Japanese mimetic palatalisation revisited: Implications for conflicting directionality. *Phonology* 26.369–388.

Hyman, Larry 1975. *Phonology: Theory and analysis*. New York: Holt, Rinehart and Winston.

言語学子 2020『対照言語学の視点から見た日本語のアクセント』東京: 開拓社.

McCarthy, John and Alan Prince. 1995. Faithfulness and reduplicative identity. *Papers in Optimality Theory* (*University of Massachusetts occasional papers in linguistics* 18), ed. by Jill Beckman, Laura Walsh Dickey, and Suzanne Urbanczyk, 249–384. Amherst, Massachusetts: Graduate Linguistics Student Association, University of Massachusetts.

音韻論太 2014a「日本語諸方言における音調の分析」『日本語方言学会誌』13(1).77−91.

音韻論太 2014b「ドイツ語ウムラウトの音響音声学的分析」山田花子(編)『音声学・音韻論研究の最前線』77−91. 東京: 開拓社.